

地域公開講演会

講師 鈴木 守 先生
群馬大学学長

「切らずに治す」重粒子線がん治療が、平成 21 年度より群馬大学で行われるようになります。

群馬大学が進めている取り組みについて、鈴木守先生よりわかりやすくお話していただきます。

講演 「切らずに治す重粒子線がん治療」



鈴木 守 先生 略歴

昭和 13 年 11 月 30 日生まれ、

昭和 44 年 3 月 千葉大学大学院医学研究科博士課程修了

昭和 51 年 6 月 群馬大学教授

平成 10 年 4 月 群馬大学医学部長

平成 15 年 12 月 群馬大学学長就任、現在に至る

専門は寄生虫学、マラリア対策研究で世界寄生虫学者連盟会長、日本寄生虫学会理事長などを歴任。また、平成 20 年から国立大学協会経営支援委員会委員長。

日時 平成 21 年 2 月 7 日 (土)

午後 2 時開演 (午後 1 時 30 分開場)

会場 ホテルベラヴィータ 2 階

(沼田市材木町 178-1 TEL 0278-60-1000)

参加費 無料

主催 利根保健生活協同組合 連絡先 0278-22-4321

お問い合わせ先：利根保健生協組織課、または利根中央病院地域連携室へ

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>



理念と方針

理念 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり



あけまして おめでとうございます

本年もよろしく お願い申し上げます



今号の特集

✦ 病院長あいさつ 院長 長坂 一三

✦ がん診療連携

①「がん診療手帳」のご紹介
泌尿器科医長 田村 芳美

②沼田利根医師会学術講演会
「群馬大学におけるがん重粒子線治療」
群馬大学重粒子線医学研究センター
准教授 大野 達也 先生

✦ 内科医師体制変更のお知らせ

✦ 「地域公開講演会」のご案内

講師：群馬大学学長 鈴木 守 先生
「切らずに治す重粒子線がん治療」



「内科医師体制」変更

本年4月より、下記の内科医師が異動となります。
患者様、及び関係各位様には大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

富岡 眞一 医師（呼吸器担当）

大塚 敏之 医師（肝臓担当）
萩原 聡 医師（肝臓担当）
*萩原医師は7月より異動となります。

石田 克敏 医師（消化管、膵、胆担当）
安岡 秀敏 医師（消化管、膵、胆担当）
佐藤 洋子 医師（消化管、膵、胆担当）

加藤なつえ 医師（循環器担当）

片野 明子 医師（内科一般担当）



り、これらのがんに対して詳細な治療の適応を検討しています。

Q3. 準備や治療に必要な期間はどのくらいですか？

体や病巣に合わせた治療用具をオーダーメイドで作るため、準備に約1週間は必要となります。腫瘍の状態や部位にもよりますが、実際の治療期間は数日～4週間（平均3週間）で一般の放射線治療のおよそ半分です。

Q4. 入院が必要ですか？

本来、重粒子線治療では身体的負担が軽く、全身状態が良好であれば外来通院でも行うことができます。しかし、治療する施設の状態や病状、担当医師の判断により、入院をお願いする場合があります。

Q5. 費用はどのくらいですか？

重粒子線治療が先進医療として行われた場合、先進医療に該当する費用は特別料金（約300万円）となります。これは、公的な健康保険の対象にはなりません。その他、一般的な診療と共通部分である診察や検査、投薬、入院などの費用については健康保険の対象となり、一部負担金（例えば3割負担）を支払う必要があります。任意加入の民間医療保険に加入されている方は、通院や入院に応じた給付が保険会社から受けられます。一部のがん保険など、民間医療保険の特約によっては、先進医療に対して費用の全額または一部が給付される場合があります。

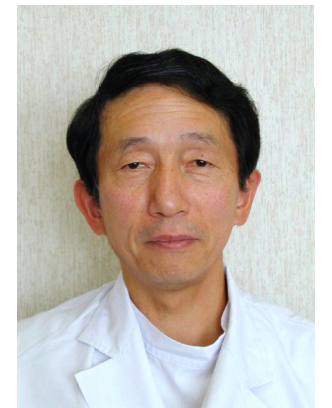
Q6. 既に治療の予約が開始されているのですか？

いいえ。群馬大学における重粒子線治療の具体的な開始時期は、施設の整備状況を確認しながら来年度後半に検討する予定です。

Q7. 今、重粒子線治療を受けたい場合はどうすればいいのでしょうか？

現在重粒子線治療を行っている国内の2施設（放射線医学総合研究所、兵庫県立粒子線医療センター）では、それぞれのホームページで相談や受診の手順に関する情報を得ることが出来ます。また、群馬大学医学部附属病院でも「重粒子線治療」の相談窓口が開設されており、重粒子線治療経験のある医師による診察を受けることが可能です。希望される方は、あらかじめ電話での予約が必要です。（受付：TEL 027-220-7891、完全予約制です。また日時については

ご希望に添えない場合があります。）なお、群馬大学における重粒子線治療が開始されるまでの期間、重粒子線治療の適応が予想される患者様には、稼働施設への紹介状作成等も行っております。



利根中央病院
院長 長坂一三

あけまして おめでとうございます

昨年はまさに激動の一年でした。福田首相の突然の辞任、麻生内閣の成立と支持率の急落、アメリカ発の世界的金融危機、实体经济へのきわめて深刻な影響と労働者の社会的反撃開始など、これまで考えられないような事柄が次々と生じまさに「百年に一度」の感がありました。

医療機関（というより国民）にとって、医師不足の影響は特に深刻で当院もその大波をまともに受けております。ここまで来ますともう小手先の対応だけではどうにもならず、大元からの対策が必要と実感しております。

後期高齢者医療制度の廃止、社会保障費自然増年2,200億円削減の中止、経済財政諮問会議の改組、医師の大幅増員と適正な配置など、国政の課題に正面から向き合うことなしに私たちの課題は解決しないのではと痛感しております。（厚生労働省も舵をきりつつあるとの意見もありますが、問題は理念であると思います）

また、今年は医療機関にとりまして連帯と連携をキーワードとした取り組みが強く求められるのではないのでしょうか。500床以上の大規模病院だけが優遇される診療報酬体系の変更を求めることは、地域の中規模・中核病院にとりまして死活問題とも言えます。連帯した行動で実現を迫って行きたいものです。地域の切実な課題である、救急医療、休日夜間診療なども地域のネットワークなくして実現できません。今年こそ地域の医療機関と自治体、地域に暮らす人々が手を取り合い、これまでの取り組みを基礎に医療・福祉のネットワークづくりの画期の年となりますよう、微力ながら力を尽くしたいと思います。

今年は、大きな目標実現に向けて何かが起こる予感がします。また是非起こしたいと決意を新たにしております。

本年も宜しくお願い致します。

「がん診療手帳」紹介

利根中央病院
泌尿器科医長 田村芳美



当院は、地域がん診療拠点病院に指定されている事情から、病診連携を勧める目的でこのたび「がん診療手帳」を作成しました。今回はその概要についてご説明いたします。

がん患者さんは当院だけでなく、県内の他のがん診療拠点病院を受診することもあります。そこで他施設でも使いやすいように、群馬大学で作成したがん診療手帳をモチーフに改変したものを運用することとしました。大きさはA5版で、クリアファイル形式のため経過によりページの増設ができます。がん告知をしていることが使用の前提となりますので、配布を希望する患者さん、あるいは当院の主治医が必要と考えた患者さんに手渡すこととしております。母子手帳と類似の感覚で使用できればと考えております。受診日にはいつも持参するよう患者さんにお伝えする予定です。

記載内容をご説明します。現病歴、病名、病期、治療内容、今後の方針等が3ページにわたり記載されます。その後、施行検査項目と当院主治医および本人からの疑問質問のやり取りを記載するページが6年分続きます。処方内容をお知らせするページも特別に作成しました。当院からの処方薬を印刷したシールを貼り付けてあります。主治医には処方の変更になるたびに新しいものを貼るよう伝えてあります。残りのページは患者さんへの一般的な情報提供を記載してあります。県内のがん診療連携拠点病院の案内、セカンドルックオピニオン、相談支援室、訪問看護ステーション、患者会の案内、医療費補助の案内などです。再発が疑われた時の対処方法、緩和ケア外来、疼痛管理の説明を掲載し、最後に再発再燃時の治療内容を記載するページを設けてあります。

特に、「がん診療手帳」を患者さんが持参されたら、先生方にも診療状況を記載していただくと病院主治医は助かると思われれます。また、先生方のかかりつけ患者さんが当院でがん診療を開始した場合、先生方から要望があれば「がん診療手帳」を発行する用意があります。当院地域連携室までご一報ください。がんは利根沼田地域でも今や死亡原因のトップです。しかしながらこの疾患に対して病診連携が十分機能しているとは申せません。この状況を少しでも打開できるよう「がん診療手帳」が役立てばと考えております。



「群馬大学における がん重粒子線治療」

群馬大学重粒子線医学研究センター
准教授 大野達也 先生



昨年11月12日（水）群馬大学重粒子線医学研究センター准教授 大野達也先生をお招きして、「群馬大学におけるがん重粒子線治療」の講演会が当院主催で開催されました。

平成21年度より群馬大学で始まる「切らずに治す」がん重粒子線治療について、院内外30名を超える先生方と最先端の医療を地域の患者様へ提供すべく学び合いました。

大野先生より、がん重粒子線治療に関するQ&Aをまとめていただきました。

群馬大学の重粒子線照射施設の建設は、平成19年2月に開始されました。現在は完成が近い建屋の内部に照射装置が運び込まれており、平成21年度後半の治療開始を目指して準備中です。ここでは、重粒子線治療に関して日頃よく質問される内容をQ&A形式でまとめてみました。なお、詳しい情報を知りたい方のために、重粒子線医学研究センターのホームページにもQ&Aのコーナーがあります。（<http://heavy-ion.showa.gunma-u.ac.jp/jp/faq.html>）

Q1.どのような治療法ですか？

炭素イオンを専用の加速器で光の70%まで加速し、このビームを体や病巣の位置に合わせてミリ単位の高精度で狙い打つがん治療法です。一般の放射線（エックス線、ガンマ線）に比べると、がんに対する集中性に優れ、かつ細胞を死滅させる生物効果が2-3倍強いことがわかっています。現在のところ、千葉、兵庫、ドイツの世界3か所のみで治療が行われています。

Q2.群馬大学で適応となるがんの種類は何ですか？

これまで、千葉市の放射線医学総合研究所で行われてきた重粒子線治療の結果、1) 部位としては、頭頸部（眼を含む）、頭蓋底、肺（1期）、肝臓、前立腺、骨・軟部、直腸癌術後骨盤内再発などで有効、2) 一般の放射線に抵抗性を示す腺癌系や肉腫系の腫瘍にも効果がある、ということが明らかにされてきました。群馬大学でも外科、内科、放射線科の医師が部位毎にチームを作